

元国土交通省熊本河川  
国道事務所長



森田 康夫

熊本地震によって南阿蘇村の阿蘇大橋地区で発生した大規模斜面崩壊は、長さ約700m、幅約200mに及び、崩落した土砂は推定約50万立方mにも上ります。また、崩壊斜面の上部には多数の亀裂が入り、さらに崩れる危険性もありました。

緊急的な復旧工事を担当することになった熊本河川国道事務所は、発災直後の2016年5月5日から工事に着手。監視装置の設置、不安定な土砂を受け止める一段の土留め盛り土、斜面頭部の土砂の除去と、順次作業を進めていきました。

二次災害を防ぐため、崩壊地内の作業は全て、無人の重機や車両を遠隔操作する「無人化施工」でした。余震や降雨、霧、

火山灰由来の軟らかい「黒ボク土」により、梅雨明けまでの稼働率は5割以下と困難を極めましたが、その後は天候にも恵まれて順調に進みました。  
ここまでが、私が復旧工事に直接携わった部分です。翌17年度からは新設の熊本復興事務所が引き継ぎ、地震発生から約4年半後の20年8月にはJR豊肥線、同年10月には国道57号の再開に至りました。

九州屈指の観光ルートで通勤・通学路線でもある豊肥線と国道57号は、全国有数の多雨地帯かつ脆弱な地質を有する阿蘇外輪山を通るため、豪雨や土砂災害で過去に何度も不通になりました。今回の地震による被災は過去のどの災害をもしのぐ規模でしたが、関係者の尽力でこれを克服することができました。

大規模斜面崩壊と、その復旧の経緯を記した現地の石碑が、熊本地震を後世に語り継いでいます。

## 一筆

## 厳しい環境を克服して

# 熊本地震